

# 欧米景気減速への警戒が再燃

## ポイント① 米金融引き締め長期化観測

8月26日、米国で開催されたジャクソンホール会合で、注目のパウエルFRB（米連邦準備制度理事会）議長による講演が行なわれました。講演内容は「インフレ抑制を最優先し、インフレ鎮静化まで金融引き締めを継続する。その結果、家計や企業が痛みを伴う可能性を排除しない。」と、厳しいものとなり、市場は金融引き締めがこれまでの想定よりも長期化すると受け止めたようです。

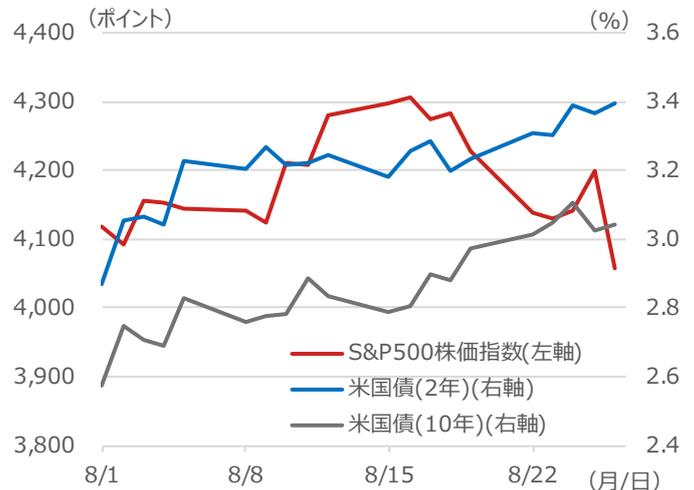
## ポイント② ECBも引き締め強化か？

この日は、9月に予定されているECB（欧州中央銀行）理事会で0.75%の大幅利上げが行なわれる可能性も報道され、米金融引き締め長期化観測と合わせて、欧米株式市場の反応は厳しいものとなりました。欧米で強い金融引き締めが継続することで、欧米景気の減速懸念が再燃、欧米株式が前日比で大幅安となりました。一方、米国債市場が小動きに留まったことから、米利上げ水準自体への市場予想は大きくは変わっていないようです。

## ポイント③ 引き続き米インフレに注目

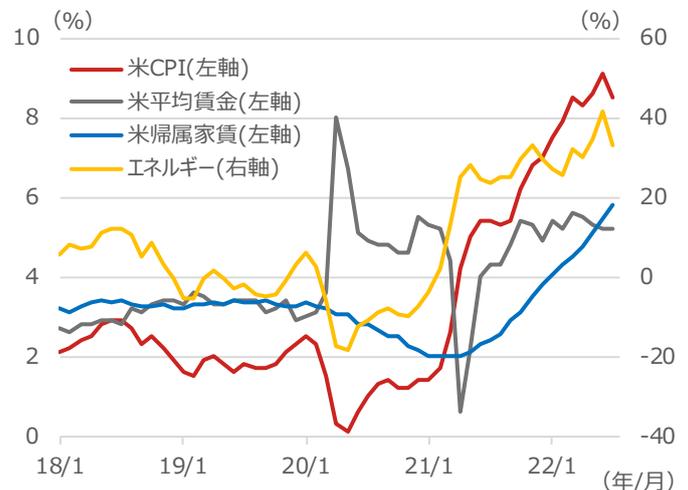
FRBが警戒している米インフレですが、エネルギー価格高騰が一服してきたことで、米CPI（消費者物価指数）にはややピークアウト感が見られ始めています。一方、CPIへの影響が大きい米帰属家賃の上昇が加速しているほか、サービス価格全般へ影響を与えやすい米賃金上昇率も高止まりしていることへの警戒が必要です。したがって、金融引き締めなどを通じてこれらの指標に鎮静化が見られるかが非常に重要になってきており、今後の市場の関心はエネルギー相場から、米賃金指標や米住宅関連指標に移っていきそうです。

米国株式と米国債利回りの推移



期間：2022年8月1日～2022年8月26日、日次  
※米国債利回りはBloomberg Generic  
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米国のインフレ関連指数 (前年同月比)



期間：2018年1月～2022年7月、月次  
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要 イベント	9月2日	米雇用統計 (8月)
	9月13日	米消費者物価指数 (8月)